



海陽町総合学術調査の報告にあたって

徳島県立図書館長 野々瀬 由 佳

令和元年度から2年度まで行われた海陽町総合学術調査の結果がまとまり、その報告書「阿波学会紀要第63号海陽町学術調査報告」を発刊する運びとなりました。

この紀要が最初に発行されましたのは、昭和29（1954）年で、総合学術調査は、徳島県立図書館と阿波学会との共催事業であり、毎回ひとつの市町村をフィールドとして、様々な分野の郷土の学術研究団体の皆さんが現地調査を行います。

実に66年もの歴史があるこうした活動は全国でも希で、平成24（2012）年度には県内市町村を一巡し、現在は二巡目の調査を行っております。県立図書館では、これまでの活動の成果である調査報告書を収蔵してレファレンスに活用するとともに、紙の本での閲覧・貸出に加えてwebで公開して県民の皆様の「知りたい」にお応えしており、永年に亘って郷土に関する資料の充実に協力できましたのは大変誇らしいことです。

さて、今回の海陽町の調査は、平成18（2006）年の3町の合併以前に行った旧海部町の調査（昭和61（1986）年度）以来となります。令和元年8月に海陽町立博物館で開催した結団式では、当時の山下館長から、特別寄稿にもありますように、中世後期の阿波南方の水運に係る興味深いご講演をいただき、1年目の調査を本格的に開始いたしました。

その後も各班それぞれ調査を進め、現地での中間報告会を計画していたところ、令和2年が明けて以降、新型コロナウイルス感染症の影響で、2月末からの県主催イベントの中止または縮小、3月2日からの学校臨時休業、4月に緊急事態宣言が出て不要不急の県境をまたぐ移動の自粛要請やゴールデンウィークにかけて県有施設の臨時休館（図書館は閉架式で部分開館）などが相次ぎ、感染拡大防止で人との接触を大きく減らすため、外から現地入りして調査を行うことが困難になり、特に聞き取り調査を主とする分野では変更を余儀なくされました。

阿波おどりの中止が決まり、海陽町でも夏祭りなどの行事が中止されていた状況でしたが、町のご理解とご協力をいただき、徹底した感染防止対策を講じて8月に中間報告会を開催することができて、何とか成果を地元の皆様にお返しできましたことは大変有り難いことでした。このような経緯を経て完成した調査報告が、これから海陽町の地域振興に少しでもご活用いただければ幸いです。

結びとしまして今回の調査に格別のご理解とご協力をいただきました海陽町・三浦茂貴町長をはじめ海陽町教育委員会の関係者の方々、ご協力をいただきました地域の方々、そしてwithコロナの厳しい条件で調査に取り組まれた平井会長をはじめ阿波学会会員の皆様に、紙面をお借りして心から厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。